

## 「神から与えられる一日を大切に生きる」

マタイ6：34

堀田修一 19・7・21

### I ゲルスタ師の思い出。

ある時期、ゲルスタ師御夫妻を含め5組の教職者夫婦の毎週金曜日の夕食の交わり、祈り合った夢のような幸いな時を主が下さいました。ゲルスタ師から、主にある愛、謙遜、人々の救いを願う聖なる情熱を学びました。

II 「隠されていることは、私たちの神、主のものである。しかし現わされたことは永遠に私たちと私たちの子孫のものであり、それは私たちがこのみおしえのすべてのことばを行うためである」申命記29：29。

1. この地上では、私達には「隠されていることは、私たちの神、主のものである」という現実がある事を覚えておきたい。隠されていること＝愛をもって人々に尽くしておられる人々に起こる①重い病、事故、障害②人の目には、早過ぎると思われる死③災害時に、ある人々は助かり、弱っている人々を最後まで助け、避難所に誘導していた人々が災害の犠牲者になる事等。この地上では、私たちの頭、知識で理解できない事が起きる。

2. 私達は、神がすべての事（私たちの命も、私達の身に起こる事も）を支配されている事を知っている。その神を信じ、信賴している。神への信仰とは、すべての事が理解できた時に神を信賴する信仰ではなく、理解できない時も、「神は、最善をなさる、正しいさばきと報いをなさると信じる信仰」である。私達は、神ではなく、限界のある知識、限界のある理解しかできない人間である。①ある事の意味は、今理解できなくても、時満ちて、後で分かる事がある。②この地上では、分からない事もある。それは、天国に行った時に、神にお尋ねしましょう。

### III 聖書が教えて下さる私たちの生き方

1. 「あなたがたには、明日のことはわかりません。あなたがたのいのちとは、どのようなものでしょうか。あなたがたは、しばらくの間現れて、それで消えてしまう霧です。あなたがたはむしろ、『主のみこころであれば、私たちは生きて、このこと、あるいは、あのことをしよう』と言うべきです」ヤコブ4：14, 15。私達には、明日の事はわからない。生きているかどうか分からない。とすれば、ただ消極的に生きるべきなのだろうか。そうではない。私たちの命を造り、支配されている主に日々、拠り頼み、主のみこころを祈り、伺い歩みたい。「主のみこころであれば、私達は生きて（生かされて）、神が喜ばれる「このこと」を、また「あのことをしよう」と主と靈的に結合した者として、瞬間瞬間、一日、一日、主から命と力をいただいて主の喜ばれる事をして行きたい。

2. 「明日のことまで心配しなくてもよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります」マタイ6：34。明日の事は、明日を支配されている神が、心を配り、守って下さいます。労苦（自分が今日なすべき分）は、その日その日に十分あります。それゆえに、一日一日を大切に主と共に歩む事で十分。それだけでなく、明日についての心配は、無駄である。

明日の心配と成すべき備えは全く違う。計画を立て、一日分を集中して行う。今自分を脅かしている将来の悲劇は、想像の産物。悪いほう、悪いほうに考え、今日なすべき分のエネルギーを浪費してしまう。心配は、自分の現在の力を自分で弱めてしまう。将来の問題に取り組む能力を自分で低めてしまう。この世に生きる限り、労苦、困難があると聖書は教えている。大切な事は、労苦、困難にどう立ち向かうかである。自分の知恵、力で立ち向かうか、靈的に結合され、繋がっている主と共に立ち向かうかである。そこには大きな差がある。主が、マタイ6：34で教えられているのは、この世での全生涯において起きそうな事を総計して、心配しつつ、今日という大切な一日を過ごしてはならないという事。そんな事をすれば押しつぶされてしまう。今日という一日には、一日分の問題や困難がある。大切な事は、次の事実を悟る事である。すなわち、その日はその日自体として、その日を一単位として過ごすべきという事。ここに神からの今日の分量がある。これに直面して、心をここに置いて、これと取り組むべき。先走りして、今日の分に明日の分を付け足してはならない。そうでないと、今日が重過ぎる日となってしまう。来る日、来る日毎に、神が分け与えて下さるその日の分を受け止めよう！ここに、今日の分がある。それに主と共に直面し、それと主と共に取り組もう。明日の事は心配せず、主に委ねよう。明日には明日の分がある。しかし、それは、明日来るのであり、今日ではない。もし、自分の力を弱められたり、精神的に追い詰められたくないなら→昨日（過去の後悔）や明日（将来の不安）を、今日という二度と来ない大切な日に、背負い込んではいならない。神が与えられた今日に生きよう、主と共に。「どうしてあんな事をしたのだろう」という後悔は、皆あるだろう。それに対して二つの生き方がある＝

①後悔をし続け、自分を責め続け、今日という日に、なすべき分があるのに、その為の力を消耗する生き方。

②後悔ではなく、神に悔い改め（方向転換）、正直に神に自分の過去の過ちを告白し、主を信じ、赦しを受け、主と靈的に結合し、主から新しい命と力を受け続け、神が下さる一日一日を主と共に心を込めて生きる。

②の生き方を選び取りましょう！神が下さるエネルギーを浪費してはならない。過ぎ去った事や将来への過度の心配に、エネルギーを費やしてはいけない。ここに、神が与えられた今日がある。今日を主と共に最大限に生きましょう。今日私達を助けて下さる神は、明日も同じ神であり、明日も私達を助けて下さる。この地上における生涯を、神は、一日一日に分割して与えて下さる事を学びたい。神への信仰生活も同じである。私達は、生涯分をまとめて一度だけ神に信頼し拠り頼むわけではない。色々な問題が自分に起こって来る度に、神に信頼し拠り頼む事を学ばなければならない。自分で自分の将来を先走って考え込んではいならない。また、神があなたの為に用意しておられる神の将来を先走って考えてはいならない。一日一日を神と共に生きよう。神がその日その日にするように命じられる事をしよう。決して神に先んじてはいならない。神が常にあなたに先立って歩んで下さる。私達の命は、神の御手の中にあります。年齢に関係なく、いつ天に召されるか分かりません。何時召されても良いように、神が与えて下さる一日一日を主と共に大切に生きましょう。神は、あなたより先に、今、ここにおられ、私たちの問題に対処して下さる。神が、私たちと共にいて下さり、問題を全部知っていて下さり、私達自身の重荷も全部知っていて下さる。神に一日一日、拠り頼み歩みましょう。